

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270401027		
法人名	有限会社 高齢者介護センター		
事業所名	グループホーム宮田		
所在地	千葉県千葉市若葉区中田町1041-1 (電話) 043-228-7780		
評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成20年3月30日	評価確定日	平成20年4月12日

## 【情報提供票より】(平成20年3月13日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算 6人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	造り
	階建ての	～ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 18,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	700 円	おやつ 夕食に含む 円
	または1日当たり 1,600 円		

## (4) 利用者の概要(平成20年3月13日現在)

利用者人数	5 名	男性 4 名	女性 1 名
要介護1	0	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 69 歳	最低 58 歳	最高 91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉中央病院 東接骨院 野呂歯科クリニック 高根整形外科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム宮田は、千葉駅から路線バスで約30分の静かな緑豊かな郊外にある木造平屋建ての施設である。現在利用者は5名であり、定員の9名が入居できるよう増築中である。「利用者が長期にわたり安心かつ快適に暮らせるような共同生活の場として機能するように頑張ります」を独自の理念として掲げ運営している。また、日常の合言葉は「生き生き、のんびり、あったかく」であるがその通り実践している。施設長はじめ職員全員元気で明るく利用者と接しており、こじんまりしていることもありまさに温かい雰囲気ホームである。増築完成後も現在のサービスの質が維持され優秀なグループホームになるよう期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は要改善項目として6項目挙げられている。室温、介護計画、個別記録、栄養管理、救急法講習、感染症対策に関するものであるが、その内容について全員で検討し、順次改善をしている。検討したが改善の必要のないものもある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、施設長、主任をはじめ職員全員が参加してを実施している。外部評価の訪問調査に対しては、施設長、主任、ケアマネージャーが終日対応し、熱心な対話等が行われた。また、利用者にも外部評価について説明している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>第1回運営推進会議が昨年8月に開催された。出席者は、家族、地域住民、有識者及び施設側からの3名で、報告と質疑応答が行われた。議題は、①運営推進会議のあり方、9月からの運営方針、重要事項に関する説明、施設見学などであり、議事録も作成されている。今後は開催の回数をもっと増やすようにしたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族に対する報告や意見・苦情の聴取は、毎月お金の支払いにこられるときに行っている。報告内容は、ホームでの暮らしぶり、健康状態、連絡事項などである。金銭管理は行っていない。意見・苦情については、今のところあまり多くないが、今回の家族アンケートでは、出来ればもう少し運動・外出を多くして欲しいと言う希望があった。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が地域で暮らし続ける基盤づくりとして、地域との連携を十分行っている。自治会には加入しており、老人会にも出席している。また、施設の行事には地域の呼びかけ参加してもらおう一方、地域の活動にも出来るだけ参加するようにしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念として「利用者が長期にわたり安心かつ快適に暮らせるような共同生活の場として機能するように頑張ります」を掲げて運営している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やリビングに掲示してあり全員常に見ることが出来る。施設長はじめ全員で理念にあるような「安心かつ快適な共同生活」を目指してサービスを実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつきあいは十分行われている。自治会に加入しており13年間会長を務めていた。老人会にも出席している。また、施設の行事には地元の人に声をかけ参加してもらうとともに地域活動にも極力参加をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価も全員で取り組んでいる。昨年要改善項目として6項目挙げられたが、その内容について検討し順次改善をしている。検討したが改善の必要がないとしたものもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議が昨年8月に開催された。出席者は、家族、地域住民、有識者及び施設側からの3名で、報告と質疑応答が行われた。議事録も作成している。	○	運営推進会議開催頻度の基準は、概ね2ヶ月に1回となっているので、徐々に増やすように努めて欲しい。また、構成メンバーとして市の関係者も必要かと思うので検討して欲しい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護を受けている利用者が多い関係でケースワーカーと毎月連絡を取り合っている。その他、市の担当者とも必要に応じて話し合っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族のある方には、ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態等については、毎月利用料の支払時に報告している。金銭管理は行っていない。また、何か変化があった時はその都度必ず報告や連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見等に対応する仕組みがあり、その内容を運営規定及び重要事項説明書に明記している他、玄関に掲示してある。毎月ホームに来られる時に何か意見等があったら聞いており、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所して約3年になるが職員の異動はない。もし職員が代わるがあった場合は、現状の家族サービスをチームで行っていくことで、そのダメージを克服していくとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者の職員を育てる考え方は、多くの研修を受けさせずと資格を取得させることである。施設長・職員は、研修にはかなり多く参加していることが記録から確認できる。また、働きながらのトレーニングも重視している。	○	これから施設の規模が大きくなり職員の数も増えると思われるが、一人ひとりの職員をどの様に育成していくか計画を立てて行うよう検討して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会を通じて行っている。毎月数回とかなりの頻度で開催されているので有効な取り組みである。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居の居室があり2,3日無料で体験してもらっている。一人での入居が不安な方には家族と一緒に宿泊してもらい、安心して納得して入居できるように支援している。職員は「生き生き のんびり あたたかく」を合言葉に、利用者が場に馴染めるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が掃除機をかけ、利用者はモップかけと朝の掃除を一緒に行っている。また洗濯物をたたんだり、食事の片付けを生活の中でできる事は積極的に参加している。ホーム全体が家族として支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族から希望や意向を聞いている。家族のいない利用者は生活歴を参考にしながら、日常の様子を観察し、職員間で話し合いを密にして、本人の気持ちに沿えるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員会議を開催して、計画担当者が立てた基本計画を基に、利用者や家族の希望・意向を取り入れて作成している。職員会議は、1～2ヶ月に1回の頻度で開催されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しは、モニタリングを実施して6ヶ月に1回行っている。また、状態に変化が生じた場合は医師に相談をし、必要に応じて現状に即した計画に見直している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉車両を利用して通院、買物、外食などに出かけている。お花見やぶどう狩りと季節の折々に近くに出かけて楽しんでいる。穏やかな日和にはホームの駐車場を利用して、近所のお年寄りを呼んでお茶会を催している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員同意の上、ホームの協力医療機関を利用している。徒歩可能な距離にある泉中央病院で、月1回定期的に受診している。また、歯科には月1回往診をしてもらっている。病院等への緊急時連絡マニュアルが事務所に貼ってあり、適切な支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	泉中央病院との間で重度化した場合の協力体制が出来ている。終末期については家族と話し合いを持ち、現状の職員体制では看取りは困難なことを伝え、泉中央病院系列の特養施設に優先的に入所できるようになっている。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b> (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保は個人の人権や誇りを傷つけることのないよう徹底して行っている。利用者や家族の秘密保持については利用契約書に明記して厳守している。	○	個人情報の利用目的や保護規定をパンフレットで公表するなど、個人情報保護に関する取り組みをお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在利用者は、パズル、ぬりえ、花札、テレビのスポーツ観戦と思いいに一日を過ごしている。職員は強制することなく、一人ひとりのペースを大切にして希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の好きなメニューを取り入れるとともに、食べやすいように調理している。また、テーブルを拭いたり、片付けたり、利用者は自分の出来ることを手伝って、職員とともに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・木の週2回入浴日を設けている。その日の気分で入浴を嫌がる利用者には、無理強いをしないで清拭と部分浴で対応している。	○	現体制で入浴日を多くすることはいろいろと大変なことで推察できるが、季節的なことなども考慮して適切な入浴回数を検討をお願いしたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族の意見を参考にして趣味や娯楽がいつでも出来るように支援している。全員家族の一員として役割をもち、食事の片付け、洗濯物たたみ、掃除の手伝いなど能力に応じて手伝っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲には畑や里山があり、小鳥のさえずりを聞きながら散歩するには大変恵まれた環境である。穏やかな日には車椅子を押して散歩に出かけて、畑仕事の人たちと会話をしたりして楽しんでいる。	○	家族アンケートで、出来ればもう少し外出や運動を増やして欲しいという意見があったので、現状を評価して検討をお願いしたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	平屋建てのため職員や仲間の目が行き届き、居室や玄関には鍵をかけることなく利用者は自由である。近所の方々とのコミュニケーションもよく、いろいろな面で協力の支援を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練を実施しており、自治会や近所に非常災害時の協力をお願いしている。ハード面では、家具の固定化、小型消火器の配備、懐中電灯の準備、防災カーテンの採用、飲料水タンクの設置等を行っている。また災害対策編成表が壁に貼ってある。	○	現在、ホームが増設工事中なので今年の避難訓練は実施していない。工事中の避難訓練についても検討をお願いしたい。また、避難訓練の回数は年2回程度は必要ないか話合っていたきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取した食事量、水分量を表に着け一日分を確保するようにしている。栄養のバランスは泉中央病院の指導を受けて行っている。具体的には、利用者の状態に応じて柔軟に対応している。		
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの合言葉「生き生き のんびり あたたかく」が居間に貼ってあり、利用者は職員と一緒に明るく和やかに過ごしている。リビングの直ぐ横に台所があり家庭的な雰囲気がある。季節柄、鯉のぼり、居間には五月人形が飾られていて、初夏の季節感が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は清潔で整理整頓されている。部屋の窓と上部に設置してあるエアコンは掃除が行き届いている。それぞれの居室には、管理者の心遣いで植物の鉢植えが置いてあり、利用者に喜ばれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。